

国語科

1 結果の概要

※グレーの項目は習熟基準を下回ったもの

	問題のカテゴリー	習熟基準%	正答率%	昨年度
1	漢字の読み	82.5	96.7	91.4
	漢字の書き	73.5	80.9	69.2
2	文法に関する知識	72.5	86.5	77.0
	語句に関する知識	78.8	81.4	83.4
3	文学的な文章の読み取り	65.0	72.7	70.6
4	説明的な文章の読み取り	64.0	63.1	67.1
5	作文	66.3	59.2	66.8

全体の正答率は、習熟基準を上回りました。学習内容の定着はおおむね満足できる状態であると判断できます。作文の正答率がやや低かったのは、書くことに対する経験値が関係しているのかもしれませんが。

2 結果の分析と解説

(1) 漢字の読み・書き

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
①	「漢字ステージ3・4年生」の漢字を読むことができる。	3・4年	90	89.1
②			90	97.7
③			90	99.2
④			90	96.1
⑤			90	89.1
⑥			90	100.0
⑦			90	99.2
⑧			90	100.0
⑨			90	99.2
⑩			85	97.7
①	「漢字ステージ3・4年生」の漢字を書くことができる。	3・4年	70	75.8
②			75	89.8
②			70	75.0
④			80	75.8
⑤			80	66.4
⑥			80	76.6
⑦			85	97.7
⑧			80	82.0
⑨			75	88.3
⑩			75	82.0

「漢字の読み」、「漢字の書き」については、「漢字の読み」で2問、「漢字の書き」で3問だけ習熟基準を下回りました。その他の漢字については読み書きともに習熟基準を上回り定着している状態と考えます。引き続き「漢字ステージ100」で学習した後に定着度を定期的に調べ確認する学習をしていきます。

(2) 言語事項 (文法・語句)

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	主語・述語の意味を知り、文の中での働きを理解することができる。	3・4年	75	82.0
(2)	修飾語の意味を知り、文の中での働きを理解することができる。		60	82.0
(3)	接続語の働きを理解し、適切に使うことができる。		85	99.2
(4)	伝聞と推量の意味の違いについて理解し、正しく使うことができる。		70	82.8
(5)	指ししめす言葉 (こそあど言葉) の使い分けについて理解している。		80	80.5
(6)	漢字の音訓の違いについて理解している。		65	70.3
(7)	漢字を構成する要素に部首があることを知り、部首の名前を理解している。		85	93.0
(8)	多義語について理解し、文の中での意味を使い分けすることができる。		80	82.0

言語事項に関しては、全項目で習熟基準を上回りました。昨年に引き続き、短文作りの中で伝聞と推量の語句の意味や使い分けを理解しながら繰り返し学習していくことが定着に効果的であると考えます。また、漢字の学習をしたときに音読みと訓読みを明確にして、学習し定着を図るようにすることが有効であると考えます。

(3) 文学的文章

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	文章の叙述をもとに、場面の移り変わりを読み取ることができる。	3・4年	60	60.2
(2)	文章の叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。		70	72.7
(3)	文章の叙述をもとに、登場人物の考えを読み取ることができる。		65	81.3
(4)	文章の叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。		70	76.6

文学的文章では、全ての設問に対し習熟基準を上回っています。学習内容の定着は、満足できる状況にあると考えられます。

今後も、叙述をもとに、登場人物の気持ちや様子を読み取ったり、場面ごとにまとめたりして、物語全体の流れに沿って、気持ちや様子の移り変わりを整理することで理解を深めていきます。

(4) 説明的文章

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	中心となる語や文に注意して、段落相互の関係をとらえることができる。	3・4年	60	60.2
(2)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。		60	43.8
(3)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。		50	50.0
(4)	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。		70	85.9
(5)	内容を大きくまとめながら文章を読み、筆者の意見を読み取ることができる。		55	75.8

説明的文章では、4つの項目で習熟基準を上回り、「細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。」だけが下回りました。学習内容の定着度はやや努力を要する状況と考えられます。要旨をまとめる・段落構成を考える学習を進める中で、段落の前後のつながりをていねいに読み取る学習に力を入れて、定着を図ることが必要であると考えます。

(5) 作文

	出題のねらい	履修学年	習熟基準%	正答率%
(1)	決められた字数の中で、適切に書くことができる。(121字～180字)	3・4年	75	77.3
(2)	考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。(二段落構成で書く)		60	60.2
(3)	メモの内容を一つも落とさずに書くことができる。		65	65.6
(4)	ていねいな言葉で、読み手を意識した文章を書くことができる。		65	33.6

作文については、「ていねいな言葉で、読み手を意識した文章を書くことができる。」の項目だけが習熟基準を下回っています。書いた文章を子ども同士で検討し合うなどして、目的や相手に応じた分かりやすい表現を工夫させる学習を重点に展開してまいります。

3 結果から明らかになった課題

(昨年度の結果を踏まえた改善・対策についての検証)

- ◇ 朝学習や国語の時間、漢字の読み書きの指導を繰り返してきたことにより、児童の漢字力が高まってきている。
- ◇ 「漢字ステージ100」の練習の繰り返しと同時に、家庭に協力を依頼したことで定着率が上がったと考えられる。
- ◇ 年3回の読書週間や保護者ボランティアによる読み聞かせなどにより、児童の読書量が増えた。その結果、語彙が増え、文章を読む力が高まってきている。
- ◇ 日常的に作文や日記を書かせたり、スピーチ活動に取り組みせたりしたことで、伝えたいことを相手に分かりやすく表現できるようになってきた。

- ① 「漢字の音読み、訓読み」についての理解を図ること
 - ・漢字の学習をする際に、音読み、訓読みやその意味や活用法を明確に示し、漢字の反復練習をするときに合わせて学習できるように意識させる。
- ② 「主語・述語」について理解を図ること
 - ・言語事項を扱う单元だけではなく、読解の单元でも意図的に「主語・述語の関係」を意識して、文章を読むようにさせ、繰り返し指導していく。
- ③ 「叙述をもとに、登場人物の気持ちの移り変わりを読み取る」の習熟を図ること
 - ・「気持ちの移り変わりを読み取る」には、意味段落ごとの登場人物の気持ちを読み取り、時間の経過とともにどのように変化していったのかを表現に着目させながら整理する学習活動を重視して取り組む。
- ④ 「細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解する」の習熟を図ること
 - ・文脈を理解するためには、語と語、文と文、段落と段落の關係に着目させ、指示語や接続語の指導に重点をおくことが大切である。また、文章全体の文章構成図や3部構成を理解するなどの指導を充実していく。
- ⑤ 「決められた字数の中で、適切に書くことができる」の習熟を図ること
 - ・目的や相手に応じて、自分の伝えたいことや必要な事柄を分かりやすく文章にまとめる経験を数多く積ませる。

4 今後の改善・対策

- ① 漢字の音読み、訓読みの理解を図る
 - ・1～4年生は朝学習で、5・6年生は朝学習とステップアップ学習で漢字の書き取りや読み方の指導の際に音読みと訓読みの区別、語句の意味や活用法を明確に示し、指導します。
 - ・定期的にステージごとの漢字テストを行い、繰り返し学習し定着できるまで指導します。

- ・学習プリントを用意し、家庭での学習が充実するよう、保護者に協力を要請します。
- ② 「主語・述語」についての理解を図るために
 - ・言語事項の指導の際に、主語と述語を意識した短文作りを取り入れ、繰り返し指導します。
- ③ 「細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解する」の習熟を図ること
 - ・単純な文章から複雑な構成の文章を学年に応じて取り上げ、叙述を基に正確に読み取れるように、継続的に指導します。
 - ・国語の説明的文章の学習において、段落と段落の関係に着目させ、文章全体の文章構成図や3部構成を理解するなどの指導に重点を置きます。
 - ・文章中のキーワード、接続語、指示語などの視点を明らかにして、それらの語句に着目しながら読み取らせます。
 - ・読書指導を継続します。学期に1回ずつ読書週間を実施します。読書カードの活用など、児童の意欲を高める工夫をします。各学年の推薦図書を児童に提示します。また、保護者ボランティアや教員による本の読み聞かせ、児童相互の本の紹介などの活動を行い、読書に興味をもち、進んで本を読む環境を作ります。
- ④ 「決められた字数の中で、適切に書くことができる」の習熟を図ること
 - ・目的や相手に応じて、自分の伝えたいことや必要な事柄を分かりやすく文章にまとめる経験を数多く積ませるために週に1回、100字程度の作文タイムを作り、継続して取り組んでいきます。

5 学力の検証方法

- 学期末のテスト、学年末の漢字定着確認テストを全学年で行います。4月に2年生以上で観点別到達度学力検査（CRT）を行います。その結果を指導部会で分析し、各学年の課題を明確にするとともに、指導内容の重点や指導法の改善策を明らかにしていきます。
- 読書に関して各学期の読書週間に合わせて意識調査を行い、学校図書館システムにより学期ごとに全児童の読書量を把握し、読書の推進を図ります。
- 保護者会では主として学力向上のための指導体制や課題、家庭学習の取組について説明します。夏の個人面談では、学力調査の結果や普段の授業から個々の課題について話し合います。また、ホームページ、学校便り、学年便りで子どもの育ちや課題についてお知らせします。

